

西京区・洛西地域の新たな 活性化ビジョン (案)

西京区・洛西地域の新たな活性化懇談会（以下「懇談会」という。）は、将来の京都市立芸術大学の移転を見据えた西京区・洛西地域の新たな活性化策について、専門的な見地及び市民の立場から幅広く意見を求めることを目的として、西京区・洛西地域の地元の代表、地域にある学術、産業等の関係機関の代表、行政、学識経験者等による協議・連携組織として平成26年7月に設置されました。

平成28年度中に懇談会として「西京区・洛西地域の新たな活性化ビジョン（以下「活性化ビジョン」という。）」を策定することとし、これまで、住民の皆様の意見を広くお聞きする「住民円卓会議」や「意見交換会」などを実施しながら懇談会で検討を重ね、この度、活性化ビジョン（案）をとりまとめました。

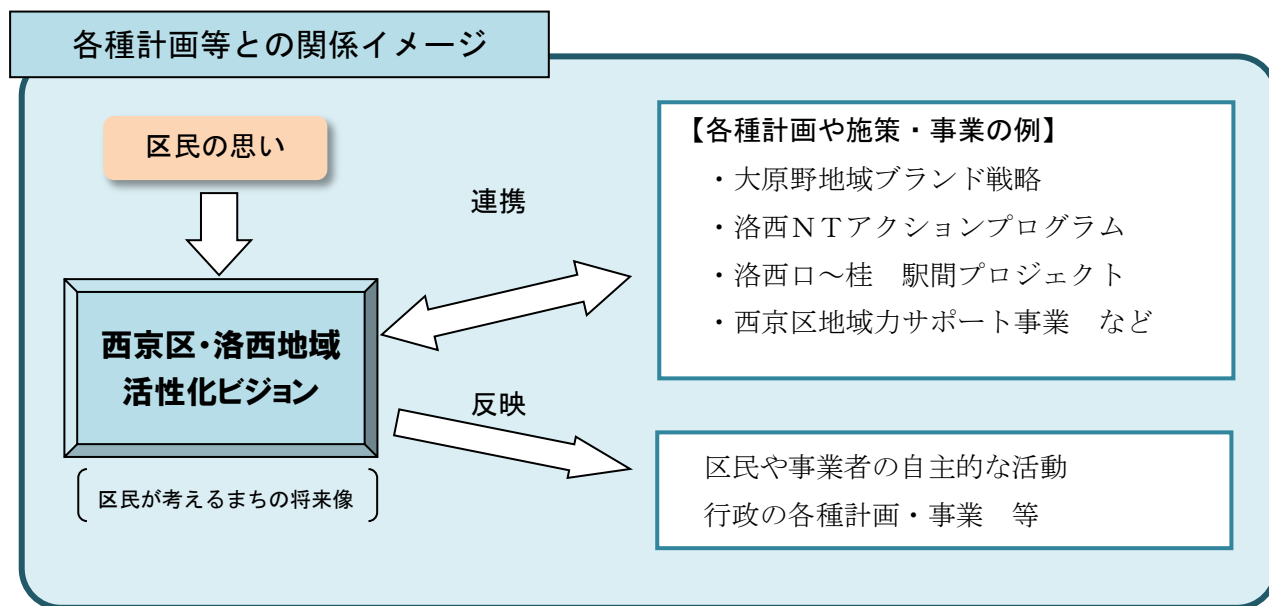
今後、これまでにご議論いただいた方々をはじめ、区民の皆様、各種団体の方々からもご意見をいただいた上で、平成28年度中に「活性化ビジョン」を策定する予定です。

つきましては、この活性化ビジョン（案）に関しまして、皆様からご意見をおうかがいしたいと思いますので、「西京区・洛西地域の新たな活性化ビジョンに関するアンケート」へのご協力をお願いします。

西京区・洛西地域の新たな活性化懇談会

1 活性化ビジョンについて

この活性化ビジョンは、懇談会が住民円卓会議などの意見を踏まえ、「西京区民が考えるまちの将来像」としてとりまとめるもので、今後、区民の皆様や事業者・行政が取り組む地域の活性化や魅力づくりなど、西京区のまちづくりを進めるにあたっての基本的な考え方としていただくものです。



2 活性化ビジョン冊子の構成案

表紙	
1P	○はじめに ビジョンの位置づけ，西京区の概要
2P	○ビジョン概要
3～8P	○ビジョン内容 ビジョンの柱 1～3の課題・現状，施策方向性
9P	○つながるマップ 進行中の西京区内のプロジェクトや地域の取組の現状をマップで示す
10P	○懇談会委員名簿 ○取組経過
裏表紙	

3 活性化ビジョン内容（案）

西京区・洛西地域の将来像として、以下の3つの視点を掲げ、今後、区民、事業者、学校、行政など様々な主体が連携・協働してまちづくりを進めるための基本的な考え方とします。

平成28年度に西京区が区制40周年を迎えるに当たって公募により定めた「キャッチコピー」を本ビジョンの将来像の参考とし、10年後の50周年の際には、本ビジョンで掲げた内容がまちづくりの中で実現していることを目指します。

西京区制40周年キャッチコピー

『未来に向かって輝け住みよい西京区！』

■目指すべきまちのビジョン

①まち・人の「つながりを育てる」

～まち・人・活動をつなげよう～

②京都の西の玄関口としての魅力を活かした

「しごとを育てる」

～「つながり」から、働いてよしのまちをつくろう～

③西京区ならではの「暮らしを育てる」

～豊かな自然とコミュニティに囲まれた「西京ライフ」を楽しもう～

①まち・人の「つながりを育てる」

～まち・人・活動をつなげよう～

【現状・課題】

	現状・資源	課題・視点
人材・団体	地域で活動している人や団体がたくさんある。	<p>区民同士で活動が十分に知られていない。</p> <p>地域を超えた人材・活動のつながりができていない。</p>
つながりの創出 新たな活動・	「桂ヴィレッジフェス」や「洛西マルシェ」など、地域の方が中心となって作り上げたイベントが生まれてきている。	<p>地域によっては地元で集える場（飲食店を含む）が少ない。</p> <p>地理的な要素を踏まえたつながりを創出していく必要がある（南区，向日市，亀岡市，長岡京市など）。</p>
地域コミュニティ ・自治会	<p>加入に伴う負担感（担い手・役員）から加入しない人が増えている。</p> <p>自治会への加入，未加入を問わずイベントなどには声をかけ，参加してもらっている地域もある。</p>	<p>地域コミュニティの希薄化が進んでいる。</p>

【施策方向性】

- 各地域で活躍している区民・団体がつながり，多様な活動同士のコラボレーションや，地域課題の解決に向けた取り組みが更に進むことで西京区・洛西のまちや暮らしがより豊かになることを目指します。

取組例：西京区全体での人材・団体の情報共有と交流促進による重層的なネットワークの構築

- ・西京区全体で，まちづくりの人材や団体の情報を共有する仕組みをつくり，交流を活性化。
- ・ただし，初めから西京全体でまとめようとせず，まずは「大原野と洛西NT」，「洛西NTと洛西口エリア」など，関係性の深い地域をつなげるところから始める。
- ・イベント・祭り等を有効に活用し，高齢者，子ども，その親世代などの世代ごと，または世代を超えて交流できる場をつくり，今あるネットワークも含め，住民間の重層的なネットワークの構築を目指す。

②京都の西の玄関口としての魅力を活かした

「しごとを育てる」

～「つながり」から、働いてよしのまちをつくろう～

【現状・課題】

	現状・資源	課題・視点
まちの魅力資源	西京区は多様な個性を持つ地域が集まっており、豊かな自然や市内最大級の農業地域から生まれる地域産品、歴史豊かな社寺仏閣等など、魅力的な地域資源も数多くある。	<p>地域資源があまり地域住民に知られていない。また、それぞれの資源が結び付いておらず、外への発信力も弱い。</p> <p>地域の魅力発信や魅力づくりを区全体・区民ぐるみで取り組むネットワークがない。</p>
西京区全体のまちの魅力アップの動き	西京区エリアにおける地域の活性化について官民が一体となって取り組む事業の一つとして、「洛西口駅～桂駅間プロジェクト」が始動するなど、西京区全体の活性化につながるまちづくりの機運が高まりつつある。	
交通利便性	<p>近年では、平成15年に阪急電鉄洛西口駅、平成20年にはJR桂川駅が開業するとともに、平成25年には京都第二外環状道路が開通するなど、都市基盤の整備が急速に進んでいる。</p> <p>区全体ではバス路線が充実してきている。</p>	バス路線について地域によっては経路や運行時間などの利便性に一層の向上が求められる（区内移動も含む）。
潜在的な人材の活用	<p>夜間人口に比べて昼間人口が少ない（夜間人口を100とした場合、昼間人口の比率は約81%）。</p> <p>元気な高齢者が多い。</p>	<p>高齢者、子育て中の母親、若者が働ける場が区内にあまりない。</p> <p>元気な高齢者の活力を活かしきれていない。</p>

【施策方向性】

- 西京区の特徴は多様な個性を持つ地域が集まっていることにありますが、外にその魅力を発信するためにも、まずは区民自身がそれぞれの地域の魅力を再確認・再発見し、それを自ら楽しむことから始めます。

取組例：区民自らが自らの地域の魅力を再確認し、つないで、外向けにもPR

- ・西京区の多様な地域性を活かす視点が重要であり、まずは区内に住んでいる住民自身が自らの地域の魅力を再確認し、それを区内で共有する取組を推進する。
- ・魅力的な地域資源を地域住民に知ってもらうためのツール（情報誌等）の開発。
- ・更に、地域資源を区全体の視点にたって結び付けていくことや、PRすることも必要。



地域住民が自分たちのまちのPRのために作成した
まちの魅力発信映像
【コンセプト：まち全体がリビングのようにアットホームな雰囲気のあるまち】
（大阪市住之江区 南港ポートタウン：映くまちPTによる）

- 良好な住環境や身近な自然環境など「郊外」としてのまちの魅力を大切にしながら、学術機関に集う多くの研究者や学生、市内有数の農業資源、個性ある歴史文化資源、高速道路による広域アクセスなどを活かした、商業・業務機能が集積する都心とは異なる、西京区ならではの「魅力あるスポット」「観光ルート・特産品・体験、見学スポットの開発」や「産業・新ビジネス」の創出を目指します。
- 西京区内の様々な人々や学術機関、企業、農業などのつながりを育てることで、コラボレーションを誘発し、新たなサービスや魅力が創出されることを目指します。

取組例：西京区のまちの資源や交通アクセスを活かした、観光プログラム等の開発・ビジネス振興

- ・西京区ならではのまちの資源を活かした観光プログラム（サイクリング、ピクニックなど）や特産品等を開発するための、事業者、住民、行政等のネットワークの形成。農業ビジネスや観光ビジネスの振興。
- ・高速道路のポテンシャルを見据えた産業の創出。例えば、車でのアクセスが向上したことと、地域資源として持っている農業地域の魅力を活かし、観光拠点として地域産品の直売施設の開設や「地産地消」の取組の推進など。



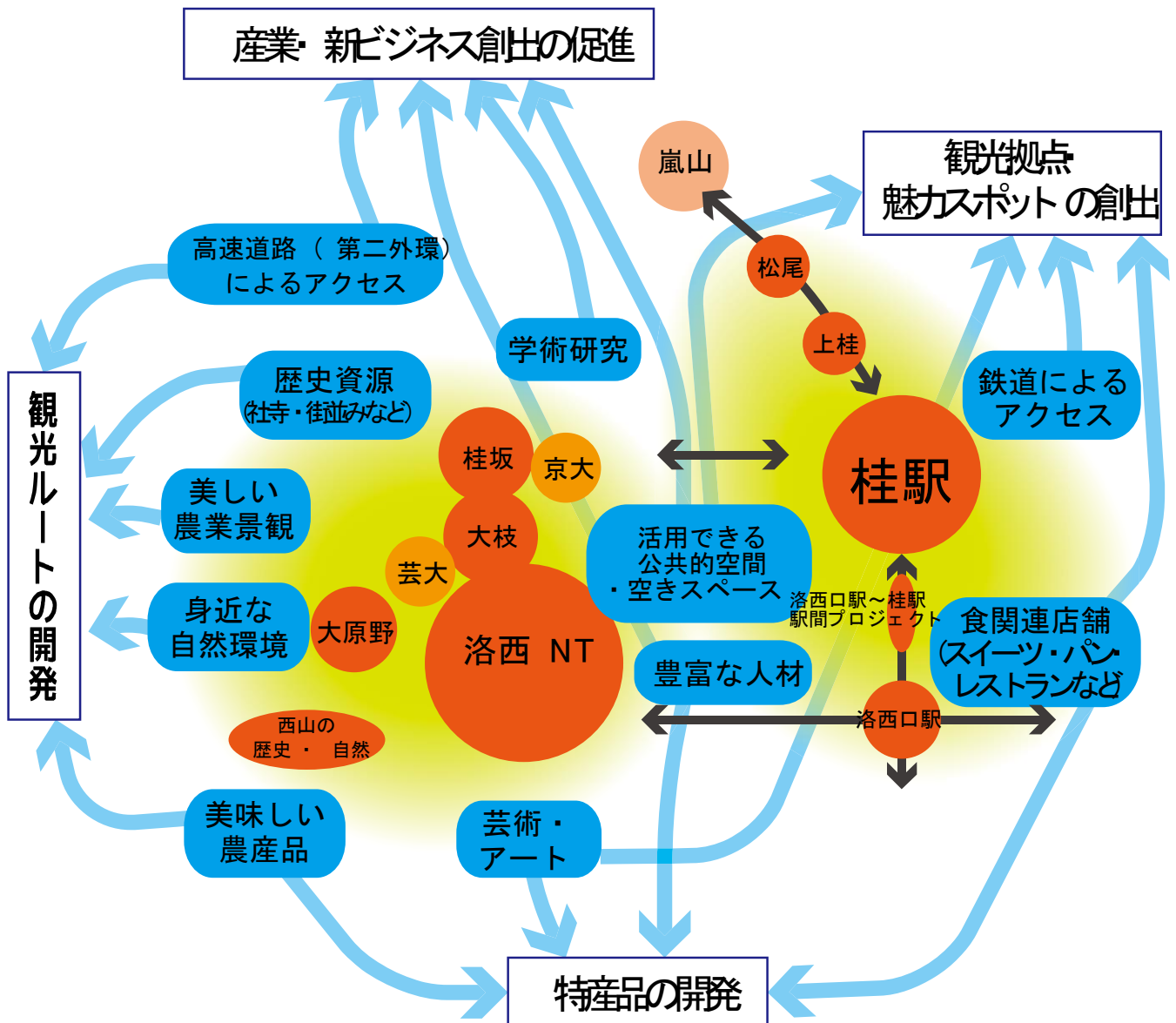
観光プログラム事例例：らくさいマップ
（フリーペーパーらくさい）

- 様々なアイデアや得意技を持つ区民のやりたい気持ちを育て、やりたいことが実現できるまちを目指します。

取組例：コミュニティビジネスの創出

- ・ 地域が抱える課題を地域住民が主体的に、ビジネスの手法を用いて解決する取組であるコミュニティビジネスの創出を促進することで、小さな経済循環を生み出すとともに、まちの魅力向上と、課題解決につなげる。

○柱立て②に関する地域資源イメージ図



③西京区ならではの「暮らしを育てる」

～豊かな自然とコミュニティに囲まれた「西京ライフ」を楽しもう～

【現状・課題】

	現状・資源	課題・視点
暮らしやすさ	自然が多く、住環境が良い。 生物多様性のまち。	暮らしやすいまちであることを住民自身が意識できていない。また、魅力を十分にアピールもできていない。
若年層の定住	大原野や洛西ニュータウンなど一部の地域では生産年齢人口（15歳～64歳）の減少が著しい。	特に洛西ニュータウンの住宅においては、若い人が入居しやすい間取りや価格設定になっていないのではないか。また、Uターンがし難い理由があるのではないか。
子供・子育て世帯の暮らし	子育てしながら働ける環境へのニーズ（保育サービスの充実）が高まっている。	夜間保育や病児保育などニーズに合った保育サービス、子育て支援サービスを充実する必要がある。
	核家族化が進み、子育てに関する負担が増している。	安心して子育てができるには、子育て情報の見える化や身近なところで親同士がつながることができる場、機会などの環境を整える必要がある。
	子どもが安心して遊ぶ場所へのニーズが高まっている。	
高齢者の暮らし	核家族化や地域コミュニティの希薄化の進行により、高齢者の孤独化が進んでいる。	高齢者が生活上の不便を家族やご近所で解決できなくなっている。
大学生の暮らし	区内には複数大学が立地し、その大学に通う学生も故郷を離れて区内に暮らす学生がいる。	区内に居住している大学生の、地域活動への関わりは薄い。

【施策方向性】

- 西京区内には「良質な住宅地」「良好な教育環境」「通勤利便性」「豊かなみどり」「駅前のにぎわい」など、子どもからお年寄りまでが住みたくなるまちとしての多様な要素が揃っているため、これらの資源・機能をリニューアル・コラボレーションしながら活用して、より魅力あるまちとしたいと思います。
- 特に、西京区、洛西地域ならではの、豊かな自然や農業、まちの歴史などを生活に取り入れ、他のまちでは味わえない個性あるライフスタイルを送ることができるまちを目指します。

取組例：洛西 NT において人口増加に向けた住宅ストックの活用

- ・洛西NTには活用可能な住宅ストックが現存するがそれが十分に活かされていない。例えば洛西NTならではのテーマ（農業・食・子育て・ペットなど）を設定し、そのライフスタイルに応じた住宅（ハード）へのリノベーションや、サービス提供や支えあいの仕組み（ソフト）の導入を推進する。ただし、洛西ニュータウンの人口減少の原因（なぜ若い人が少なくなったのか）や若者の居住ニーズをしっかりと分析する必要がある。



テーマ型住宅事例
（菜園付の賃貸マンション（UR 団地のリノベーション事例）
（東京都日野市多摩平の森 AURA243）

取組例：自然環境を活かした子育て環境と安心して子育てできる環境の充実・発信

- ・西京区の特性である自然環境を活かした子育て環境（ソフト、ハード両面）の充実や発信、地域における子どもの見守り活動をさらに充実させる。

- 子どもからお年寄りまでが安心して暮らすことのできるまちとするために、例えば、高齢者への買い物支援や子育て家庭への育児支援など暮らしの困りごとについて、地域内で支えあえる仕組みを備えたまちとしたいと思います。また、そのような仕組みを学生も含めた多くの区民の参加により推進したいと思います。

取組例：子育て中の親同士が交流できる居場所づくり

- ・子育て中の親同士が交流できるような場所を既存の施設等を使って実施。

取組例：学生ボランティアの活用

- ・学生がボランティア活動の一環として、地域でのまちづくり活動や地域の困りごとに取り組める仕組みを構築。

- 西京区・洛西地域のライフスタイルを支える交通環境の整ったまちとしたいと思います。

取組例：暮らす人・訪れる人にとって利便性の高い交通施策の再構築

- ・西京区で暮らす人・訪れる人、それぞれの視点に立ったうえで、区外へのつながりだけでなく、区内間の移動も含めた交通問題を総合的に捉えなおし、西京区に適した交通施策を再構築する。

- 大原野や大枝等の農業資源を活かした食育や、西京区内の自然環境等の中でスポーツ・芸術・文化活動を楽しむ取組を通じて、健康で楽しく、生きがいのある「西京区・洛西地域ならではの暮らし」を楽しむことのできるまちとしたいと思います。

○柱立て③に関する地域資源イメージ図

